

一問一答質問項目表

1. 熊本大地震・活断層問題について

- ① 熊本・九州を襲った地震のメカニズムの新知見をどう捉えているのか、伺う。また、その科学的知見をいかに県の防災対策に反映させていくのか、伺う。(部長)
- ② 京都大学防災研究所の西村卓也准教授は、①地震の引き金になる地盤の「ひずみ集中帯」が山陰地方で確認されたこと、②西日本全体がのるユーラシアプレートには「地盤の割れ目」が多数存在し、複雑な構造であること、③4月の熊本地震は、地盤の割れ目の位置と一致していること、などを解明した。西村准教授の知見に対する県の考えを伺う。(部長)
- ③ 地盤の割れ目と宍道断層など活断層との関連性、宍道断層と他の活断層との連続・連動性の徹底調査が重要と考えるが、所見を伺う。(部長)
- ④ あらゆる英知を総結集し、適格なる原発の基準地震動評価を求めるが、所見を伺う。(知事)

2. 島根原発1号機廃止措置計画について

- ① 中国電力の廃止措置計画では、2018年度に青森県六ヶ所村の再処理工場が稼働するとしている。再処理は、使用済み核燃料を剪断・溶解させて、プルトニウムとウランと高レベル放射性廃棄物に分離させるもので、この処理そのものが極めて危険なものである。県として、再処理工場が予定通り運転すると考えているのか、その見込みを伺う。(部長)
- ② 再処理工場が稼働しない場合の対応を計画に明記すべきである。そのことなしには、責任ある計画とはいえない。使用済み核燃料対策として、中国電力が中間貯蔵施設(乾式貯蔵施設)を建設することの是非について県の所見を伺う。(部長)

3. 核燃料サイクル(プルトニウム循環方式)について

- ① 核燃料サイクル(プルトニウム循環方式)の柱となっているプルサーマルの概要を伺う。(部長)
- ② 六ヶ所再処理工場が予定どおり稼働した場合、いくらプルトニウム回収量が見込まれているのか伺う。(部長)
- ③ 六ヶ所再処理工場で回収されたプルトニウムの利用計画概要を伺う。(部長)
- ④ 六ヶ所村再処理工場で回収したプルトニウムを再利用するプルサーマル計画の実施状況を伺う。(部長)
- ⑤ プルトニウムの累増を招く核燃料サイクルに対し、アメリカからも懸念の声が出ている。使うあてもないプルトニウムのため込みは、核不拡散条約に抵触し、国際的な信用を失うこととなる。増え続けるプルトニウム問題を根本から解決する道は、核燃料サイクルから撤退し、「原発ゼロ」を決断する以外にない。高速増殖炉「もんじゅ」や再処理工場は廃止し、プルトニウム循環方式からただちに撤退するよう国に強く求めるべきと考えるが、所見を伺う。(知事)